



平成20年12月22日

各 位

上 場 会 社 名 中部電力株式会社
代 表 者 代表取締役社長 三田 敏雄
(コード番号 9502)
問合せ先責任者 原子力部業務グループ長 増田 博武
(T E L 052-951-8211)

浜岡原子力発電所リプレース計画等について

～1, 2号機の運転終了および6号機の建設等について～

当社は、本日開催の取締役会において、浜岡原子力発電所1, 2号機の運転終了および6号機の建設等を内容とする浜岡原子力発電所リプレース計画等について決定しました。

1, 2号機については、これまで耐震余裕を高める方法（耐震裕度向上工事）について検討してまいりましたが、工事には相当な費用と期間を要するとの結論に至りました。

一方、電源構成に占める原子力発電の割合が他の電力会社に比べて低い当社は、「電力の安定供給」と「地球環境保全」の観点から、原子力発電の果たす役割に一層の期待が集まる中、何よりも優先して原子力発電への積極的な取り組みを進める必要があります。

以上のことを踏まえ、当社は、このたび、1, 2号機について工事を実施し運転を再開することは経済性に乏しいと判断されることから、その運転を終了することとし、代わりに、発電所用地の東側に6号機を平成30年代前半の運転開始を目標に建設することを計画いたしました。

また、1, 2号機の運転終了にともない、今回新たに発電所敷地内に現在の発電所施設の一部として全号機共用の使用済燃料乾式貯蔵施設を平成28年度の使用開始を目標に建設することを計画いたしました。

なお、1, 2号機の運転終了にともない、平成21年3月期決算において、約1, 550億円を損失処理する予定であります。

当社は、今後とも安全の確保を第一に浜岡原子力発電所を運転していくとともに、引き続き原子力発電への積極的な取り組みを進めてまいりますので、これまで同様、皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

以 上

(参考)

○ 6号機の建設計画について

6号機については、5号機と同様に電気出力140万kW級の改良型沸騰水型軽水炉を採用し、平成30年代前半の運転開始を目標にしています。

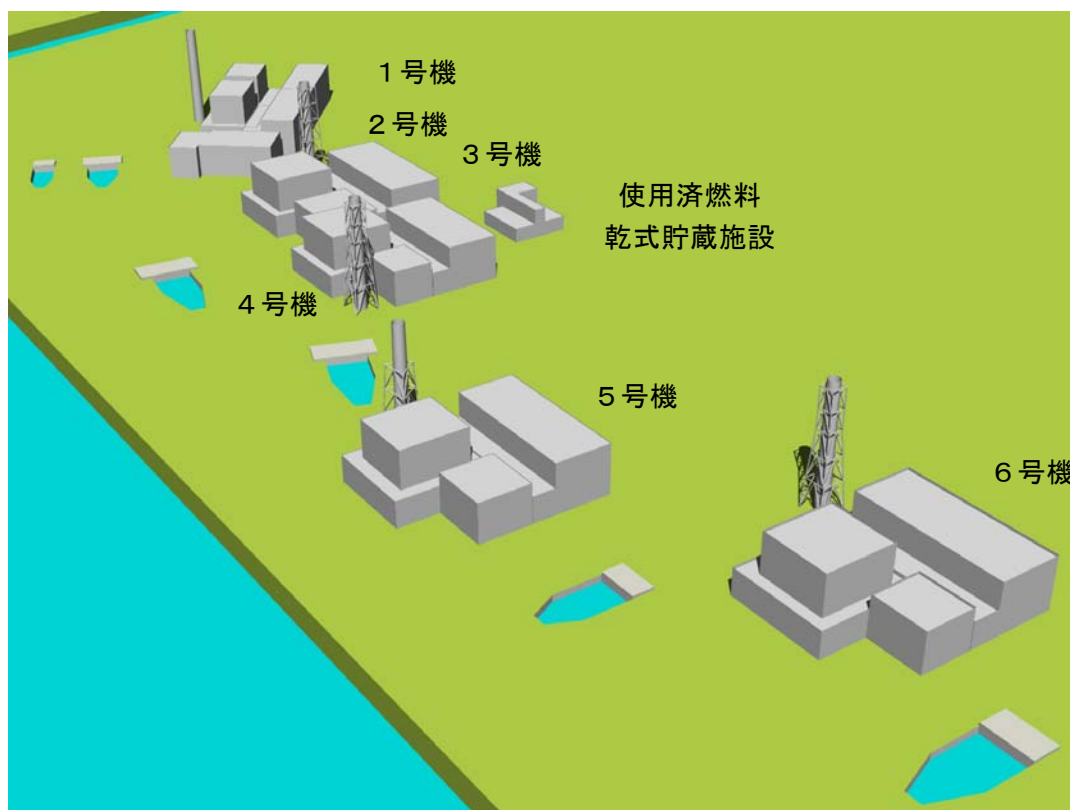
建設場所は5号機の東側とし、建設に必要な用地を確保していきます。

その計画概要および配置計画は、第1表と第1図に示すとおりです。

また、6号機の冷却に使用する海水は毎秒約100m³で、1～5号機と同様に取水塔および海底トンネルを設けて取水する計画です。

第1表 浜岡原子力発電所6号機建設計画概要

原子炉形式		改良型沸騰水型軽水炉 (ABWR)	
定格電気出力		140万kW級	
着工		平成27年予定	
営業運転開始		平成30年代前半	
原子炉	圧力容器	高さ	約21m
		胴内径	約7m
	格納容器	高さ	約36m
		内径	約29m
海水取水量		約100m ³ /秒	



第1図 6号機および使用済燃料乾式貯蔵施設の配置図

○ 1, 2号機の運転終了について

1, 2号機については、運転を終了することとし、電気事業法第9条第1項の規定に基づき電気工作物変更の届出を行います。

今後は、廃止措置を実施します。また、当面、燃料の搬出を進めます。

○ 使用済燃料乾式貯蔵施設の建設計画について

使用済燃料乾式貯蔵施設は、使用済燃料を再処理施設に搬出するまでの間、専用の容器（金属キャスク）に収納して貯蔵する施設です。

また、施設は、約700トン・ウラン規模1棟、平成28年度の使用開始を目標とし、発電所敷地内に建設します。

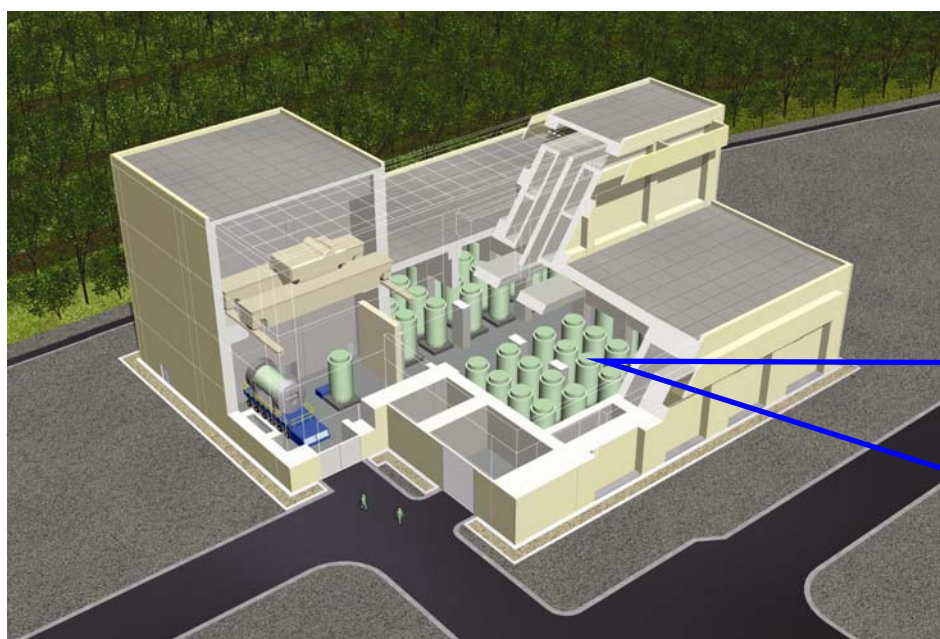
施設の計画概要は第2表、配置図および施設イメージ図はそれぞれ第1図および第2図に示すとおりです。

なお、本建設にあたり、建設場所の地質調査を開始します。

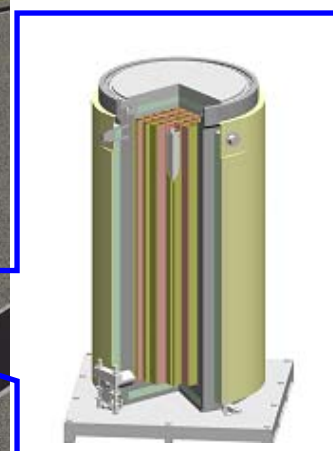
第2表 使用済燃料乾式貯蔵施設計画概要

項目	内容
貯蔵方式	・ 乾式貯蔵方式
施設の建設	・ 貯蔵建屋：約700トン・ウラン規模、1棟 ・ 建設工事期間：3年程度 ・ 使用開始時期：平成28年度
建屋規模	・ 約60m×約50m×（高さ）約25m
主要な設備・機器	・ 金属キャスク ・ 金属キャスク取扱設備 ・ 貯蔵建屋 ・ その他付帯設備（放射線監視設備等）

(※1)トン・ウラン：使用済燃料に含まれる金属ウラン量（トン）



金属キャスク



第2図 使用済燃料乾式貯蔵施設イメージ図

以上